

わたしと看護 Vol.01

消化管外科・肝胆膵外科病棟 10年目

思いに寄り添う看護

私の所属している消化管・肝胆膵外科は主に手術目的で入院される方が大半を占めています。患者さんが安心して手術がうけられるよう術前より説明を行い、術後は早期回復のための支援・合併症予防の介入を行うなど看護師の役割は様々です。

手術を受ける患者さんの中には、術後に食事の工夫が必要となる方もいます。また人工肛門を増設することによりボディイメージが変化し、精神的ショックを受けてしまう方は少なくはありません。そのような患者さんとその家族が変化を受け入れでき、退院後も安心して生活ができるよう、思いに寄り添いながら生活の指導をしていくことも看護師の大切な役割だと日々感じています。

九州がんセンターには看護師以外にも医師・薬剤師・栄養士や理学療法士など様々な職種が在籍しています。短い入院期間でも個別性をとらえ、よい医療が提供できるように、チームで協働しながら働いています。日々の悩みなどを共有できるチームがいることで、私自身学びを深めながら、よりよい看護提供をしていくことにやりがいを感じています。

